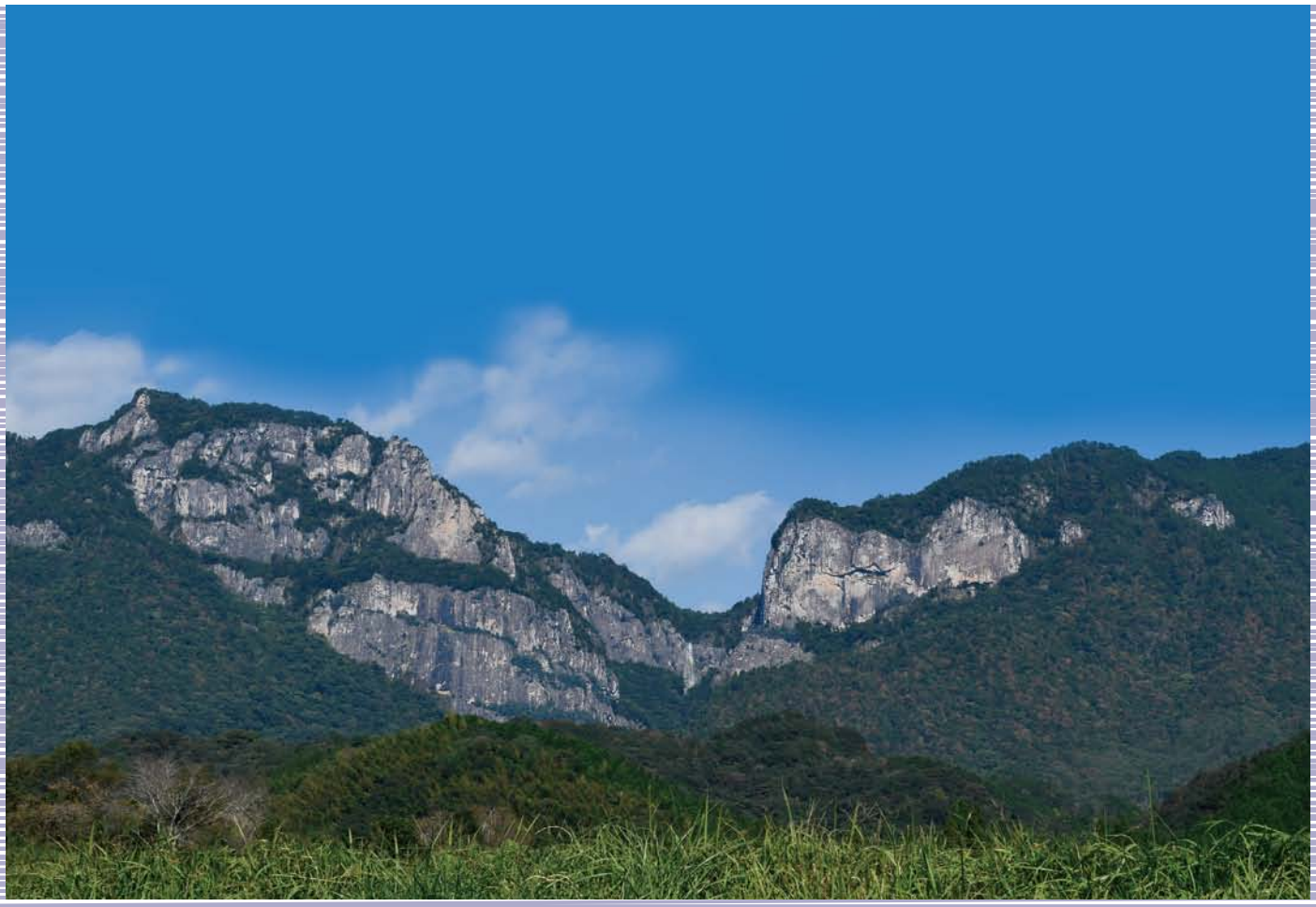
のべしん半期ディスクロージャー

NOBESHIN REPORT

平成30年4月1日～平成30年9月30日



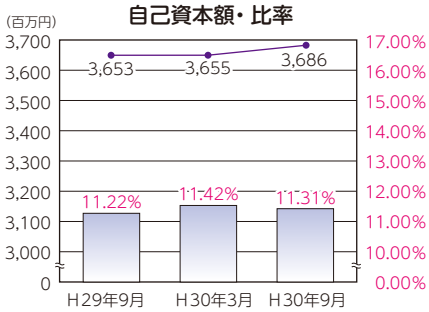
延岡信用金庫

●延岡信金の経営内容について●

◆単体自己資本額・比率（国内基準）

のべしんの自己資本比率は 11.31％です。

自己資本は金融機関の健全性、安全性をはかる重要な指標であり、その比率が高いほど健全な財務体質であるといわれております。信用金庫では経営の健全性と安全性を確保するため、４％以上の自己資本を保有することが義務づけられています。延岡信用金庫の平成30年９月末の自己資本比率は11.31％と国内基準の約３倍にあたり、健全性・安全性ともに高い水準にあります。リスクアセット額も増加しましたが、利益等の積上げによる自己資本額の増加により率的に前年同期比0.09％高くなりました。今後も、皆様に安心してお取引いただけるよう、自己資本の充実に努めてまいります。



〔単位：百万円〕

自己資本比率

11.31％＝ 自己資本額　3,686〔コア資金に係る基礎項目 3,752 － コア資金に係る調整項目 66〕 ／ リスクアセット等計32,568（信用リスク・アセットの額30,803 ＋ オペレーショナル・リスク相当額 1,764）

◆金融再生法による開示債権額

金融機能の安定と再生を図ることを目的として、平成10年10月に「金融再生法」が施行され、この法律に基づく開示基準について公表することで、当金庫の債権の全容をあらわす開示内容となっています。

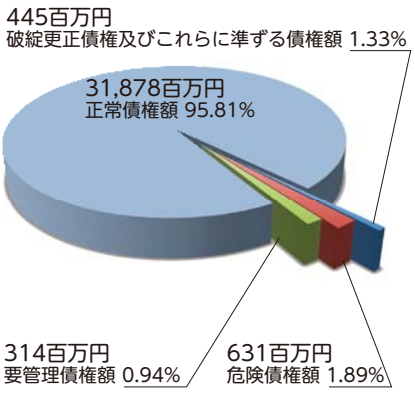
この開示基準は信用金庫法に基づくリスク管理債権が貸出金を対象となるのに対し、金融再生法基準は貸出金のほか、外国為替、未収利息、仮払金、債務保証見返を含みます。

単位：百万円

	H29年９月期		H30年３月期		H30年９月期	
	金　額	総与信額に対する比率	金　額	総与信額に対する比率	金　額	総与信額に対する比率
金融再生法上の開示債権（A）	1,381	4.18%	1,464	4.40%	1,391	4.18%
破綻更正債権及びこれらに準ずる債権額	336	1.02%	366	1.10%	445	1.33%
危険債権額	588	1.78%	772	2.32%	631	1.89%
要管理債権額	455	1.38%	325	0.98%	314	0.94%
正常債権額	31,606	95.81%	31,748	95.59%	31,878	95.81%
合　計	32,987	100.00%	33,213	100.00%	33,270	100.00%
保　全　額（B）	1,033		1,237		1,175	
個別貸倒引当金（C）	314		432		432	
一般貸倒引当金（※）	5		24		26	
個別貸倒引当金	309		407		406	
担保・保証等（D）	720		805		743	
保　全　率　（B）／（A）	74.79%		84.49%		84.47%	
担保・保証等控除後債権に対する引当率	47.38%		65.55%		66.67%	

（※）の一般貸倒引当金については、要管理先に係る一般貸倒引当金です。

※不良債権比率は全国の信用金庫の中でも低く、良質な債権を多く保有しています。



（注）

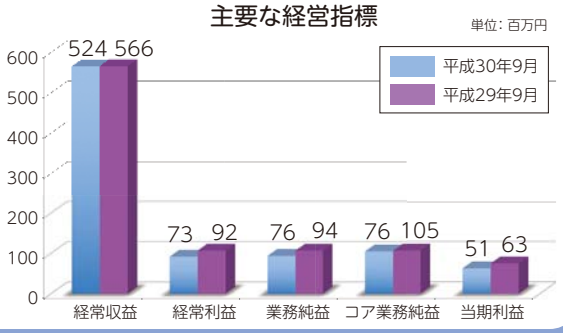
1．「破産更生債権及びこれに準ずる債権」とは、破産、会社更生、民事再生法の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2．「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至ってないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権です。
3．「要管理債権」とは、自己査定において要注意先に区分された債務者に対する債権のうち、「3ヶ月以上延滞債権」または「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。
4．「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。

◆損益の状況

単位：百万円

	経常収益	経常利益	業務純益	コア業務純益	当期利益
平成30年9月	524	73	76	76	51
平成29年9月	566	92	94	105	63

平成30年9月期は、約定金利の低下等により利息収入が減収となり、併せて有価証券利息配当金も減収となったことで業務収益で17百万円減益。支出面では預金利息が減少し、一般貸倒引当金繰入、個別貸倒引当金繰入が無く、物件費、人件費などの増加により経費で8百万円増加した。業務費用は対前期比9百万円の減少と成ったが、業務純益は17百万円の減益にて、最終当期利益でも12百万円の減益となりました。



◆預金・貸金残高の状況

●預金残高

単位：百万円

預金末残	H29年9月	H30年3月	H30年9月
	62,240	61,415	63,891

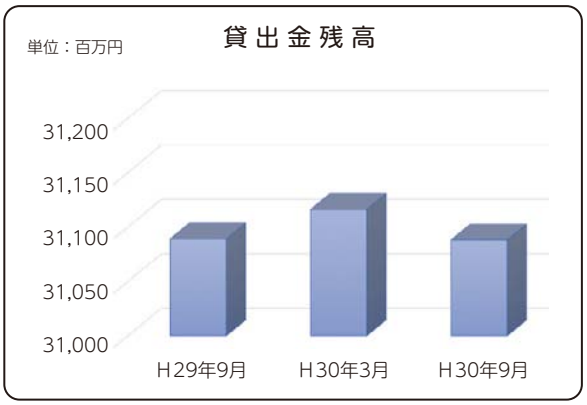
預金残高は、定期預金の獲得が順調に推移したことで平成30年３月末と比較して25億69百万円の増加。総預金は638億91百万円であり、増加額は24億75百万円（増加率4.03%）であります。

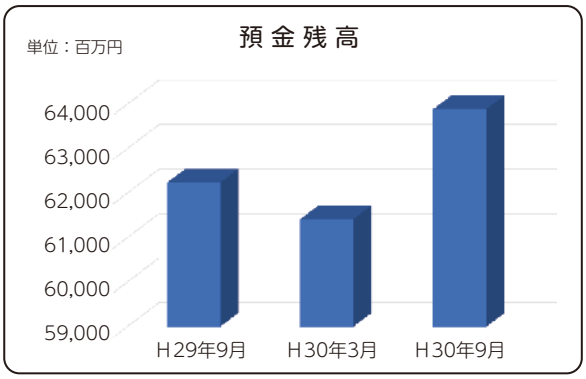
●貸出金残高

単位：百万円

貸出金末残	H29年9月	H30年3月	H30年9月
	31,089	31,116	31,088

貸出金は、平成30年３月末と比較して手形貸付、当座貸越は増加が図れたが、割引手形の残高減少が大きく、貸出金全体でも28百万円の減少にて残高は310億88百万円となりました。

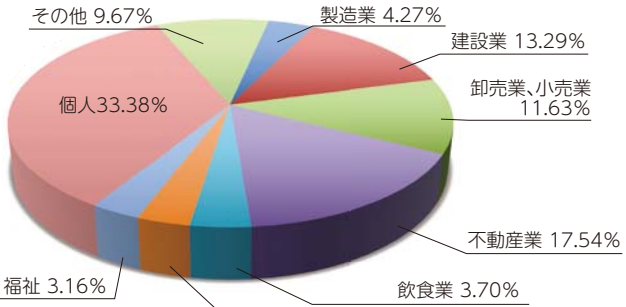




●貸出金業種別残高構成比

貸出金業種別残高構成比では、個人のお客様が33.38%と最も多くなっています。また、特定業種に偏ることなく、様々な業種のお客様に幅広くご利用いただいております。これからも、地元のお客様のニーズにお応えできるよう努めてまいります。

貸出金業種別残高構成比



その他の内訳(単位:百万円)

農業・林業（137）漁業（49）金融保険業（303）情報通信（5）運輸業・郵便業（89）宿泊業（554）物品賃貸業（512）学術研究、専門、技術サービス業（313）教育、学習支援業（46）その他のサービス業（623）電気、ガス、熱供給、水道業（115）の合計2,746百万円であります。

◆有価証券の時価情報

当金庫の有価証券運用は、格付けの高い公社債等を中心に償還リスクのきわめて小さい安全な運用に努めております。尚、有価証券の保有区分については「金融商品に係る会計基準」に基づき、「売買目的」「満期保有目的」「子会社及び関連会社」「その他有価証券」に区分することになっており、当庫は保有の有価証券すべて、「その他有価証券」にて保有しております。

●その他有価証券で時価のあるもの

単位：百万円

区分	平成30年3月末					平成30年9月末				
	取得原価(償却原価)	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損	取得原価(償却原価)	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
株式	160	166	6	8	2	160	172	11	11	—
債券	1,429	1,438	9	9	0	1,316	1,323	6	7	0
国債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地方債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
短期社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
社債	1,429	1,438	9	9	0	1,316	1,323	6	7	0
その他	1,023	1,175	152	163	11	1,073	1,210	137	150	12
合計	2,613	2,781	168	181	13	2,550	2,706	156	169	13

（注）①「取得原価」は期末帳簿価額を記載しています。
②「貸借対照表計上額」は上場有価証券については、決算日時価とし、非上場有価証券等の算定が可能なもの（店頭売買有価証券については証券業協会が公表する売買価格等、公募債券については証券業協会が公表する公社債店頭気配表に掲載されている銘柄利回りに基づいて計算した価格、証券投資信託の受益証券については基準価格）については時価相当額とし、その他のものについては帳簿価格としています。
（尚、株式のうち非上場株式保有額の帳簿価格は63百万円です。）
③上記の「その他」は「投資信託」及び「信金中央金庫優先出資」であります。

●リスク管理への取り組みについて●

◆統合的なリスク管理体勢

当金庫では、バーゼルⅢ（新しい自己資本比率規制）への対応として、統合的なリスク管理態勢の構築を目指しております。バーゼルⅢ（新しい自己資本比率規制）とは、近年の金融機関のリスク管理実務の進展や金融技術の高度化等を踏まえ、金融機関が直面するさまざまなリスクをより明らかにし、一層健全な経営を金融機関に求めるものであります。

当金庫では、リスク管理態勢の確立を経営の最重要課題として位置付け、金融環境の変化に柔軟に対応できるよう統合的リスク管理態勢の構築・充実に取組んでおります。

1．信用リスク

信用リスクとは、貸出を行っている先の業況悪化や倒産から貸出利息や元本の返済が契約通りにおこなわれなくなるリスクの事で経営に最も影響を与えるリスクの一つです。

当金庫では、与信判断の基本的な考え方を示した「信用リスク管理要領」を制定し、広く役職員に理解と遵守を促すとともに、信用リスク管理を徹底しています。また、信用リスクを計測するため、ALMシステムを導入し、リスク管理（VAR）を算出し管理しております。

2．オペレーショナルリスク

オペレーショナル・リスクは業務運営上、可能な限り回避すべきリスクであり、当金庫では「各種リスク管理方針」を踏まえ組織体制、管理の仕組みを整備するとともに、定期的に収集したデータの分析・評価を行いリスクの顕現下の未然防止及び発生時の影響度の極小化に努めています。

当面、バーゼルⅢ対応としてオペレーショナル・リスク相当額の算定は、基礎的手法による計測を採用していく方針でありますが、さらなる高度化を目指し、リスクデータの蓄積に取組んでおります。現状一連のオペレーショナル・リスクに関連するリスクの状況については、各担当部署が改善・管理状況を審議検討を行うとともに主管部署による管理状況を常務会、理事会といった経営陣に対し報告する態勢を整備しております。

3．市場リスク

市場リスクとは、資産（貸出金・有価証券など）・負債（預金など）双方の金利変動に伴う「金利リスク」、株式や債券などの価格変動がもたらす「価格変動リスク」、外国為替相場の変動に伴う「為替リスク」で、損失を被るリスクのことです。

銀行勘定における出資等又は株式エキスポージャーにあたるものは、上場株式、非上場株式、子会社・関連会社、政策投資株式、上場優先出資証券、株式関連投資信託、その他ベンチャーファンド又は投資事業組合への出資金が該当します。そのうち、保有しております上場株式、株式関連投資信託に係るリスク認識については、時価評価及び最大予想損失額（VAR）によるリスク計測によって把握するとともに、運用状況に応じて常務会に諮り投資継続の是非を協議するなど、適切なリスク管理に努めております。株式関連商品への投資は、毎年定めている余裕資金運用計画に基づきポートフォーリオ全体のリスク・バランスに配慮した運用に心掛けております。なお、取引にあたっては、厳格な運用、管理を行っております。

金利リスクに関する事項

金利リスクとは、市場金利の変動によって受ける資産価値の変動や、将来の収益性に対する影響を指します。当金庫においては、双方ともに定期的な評価・計測を行い、適宜、対応する態勢としております。具体的には、一定の金利ショックを想定した場合の銀行勘定の金利リスク（BPV）計測や金利更改を勘案した期間収益シミュレーションによる収益の影響度などALM管理システムや証券会社に定期的に計測依頼し常務会で協議検討を行うなど資産・負債の最適化に向けたリスク・コントロールに努めております。

金利リスクの算出方法としては当金庫が採用しております上下200BPVの外に最低５年間の観測期間で計測される金利変動の99%タイル値又は１%タイル値によって計算される経済価値の低下額の算出方法があります。

単位：百万円

	運用勘定合計	調達勘定合計	銀行勘定の金利リスク	金利リスク/自己資本
200BPVで算出	1,722	1,088	634	17.200%

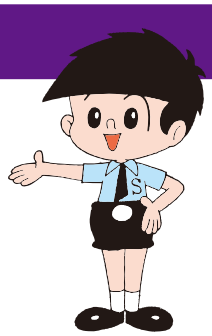
単位：百万円

	運用勘定合計	調達勘定合計	銀行勘定の金利リスク	金利リスク/自己資本
99%タイル値で算出	227	137	90	2.441%

200BPV、市場金利が２%上昇すると仮定した場合のH30年９月期の「銀行勘定の金利リスク」は634百万円となり、99%タイル値で算出した場合の「銀行勘定の金利リスク」は90百万円であります。

平成30年９月末の自己資本額は3,686百万円であります。

延岡信用金庫と地域社会



●地域貢献活動（平成30年４月から９月まで）

■奉仕作業（毎月第二木曜日）

・店周の清掃

毎月、第二木曜日を「信用金庫の日」として地域の清掃活動に取組んでいます。

■祭り・イベント

●大師まつり（４月14・15日）

●献血運動（６月９日）

６月15日「信用金庫の日」に合わせて当金庫独自の取組として「赤十字献血センター」のご協力を得て「献血活動」に取組んでいます。

今回（６月９日）も皆様のご協力により100名近くの方にお出で頂きました。

●第42回 まつりのべおか（７月21日土曜日）

「第42回まつりのべおか」に参加しました。

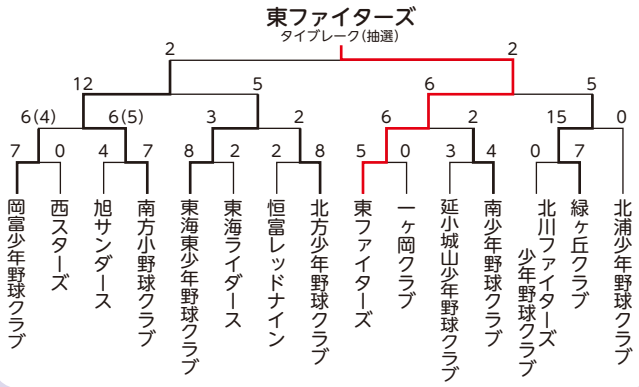
■文化・教育

●**第19回 学童野球大会**

今年も15チームの参加を頂き19回目の大会を開催する事ができました。各試合、熱戦が繰り広げられ優勝は「東ファイターズ」準優勝は「南方小野球クラブ」でした。

なお、優勝、準優勝は延長戦でも決着がつかず、大会初の抽選により決定されました。

第19回　延岡信用金庫旗争奪学童野球大会



■職員研修

地域の方々から愛され、親しまれ、選べれる金融機関となるように、職員研修も積極的に取組んでいます。

本年は「後継者バトンタッチセミナー」として当庫職員が伴走者となりお客様と共に参加する型の事業継承に関する研修会を開催しました。

のべしん CD・ATMコーナーの所在地

ATM営業時間

		営業時間	9:00〜20:00	9:00〜19:00	9:00〜18:00	9:00〜17:00	9:00〜21:00
❶ 本　店		平　日	●				
延岡市南町1丁目4-3	☎33-5221	土・日・祝祭日		●			
❷ 駅前支店		平　日			●		
延岡市幸町3丁目7	☎33-3115	土・日・祝祭日				●	
❸ 南延岡支店		平　日			●		
延岡市構口町2丁目805-3	☎33-5522	土・日・祝祭日				●	
❹ 安賀多支店		平　日			●		
延岡市三ツ瀬町1丁目4-13	☎33-2196	土・日・祝祭日				●	
❺ 一ヶ岡支店		平　日			●		
延岡市北一ヶ岡4丁目3-12	☎37-4141	土・日・祝祭日				●	
❻ 西階支店		平　日			●		
延岡市野地町6丁目5317-1	☎33-0133	土・日・祝祭日				●	
❼ 北支店		平　日			●		
延岡市柚の木田町1303-1	☎33-1811	土・日・祝祭日				●	
❽ 出北支店		平　日			●		
延岡市出北1丁目26-23	☎28-2111	土・日・祝祭日				●	
9 イオン延岡店		平　日					●
		土・日・祝祭日					●
10 マックスバリュー岡富店		平　日	●				
		土・日・祝祭日		●			
11 サンフレッシュむしか えびす店		平　日	●				
		土・日・祝祭日		●			
12 サンフレッシュむしか店		平　日	●				
		土・日・祝祭日		●			
13 イオン多々良店		平　日					●
		土・日・祝祭日					●

http://www.nobeshin.jp/